その実の意味は？

2Pカラー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
その実の意味は?

【Nコード】
N1586Q

【作者名】
2Pカラー

【あらすじ】
リッソは出会った。悪魔の実と。それも当然。彼はその『出会い』をこそ、神に願ったのだから。そんなお話。

（前書き）

ワンピでも二次創作したいなぁ、と、そんなことを考えてたら出来ちゃいました

「ハハッ。ハハハハハハッ」
ようやく手に入れた。そのことが俺に歓喜の声を上げさせる。
やっと。やっとだ。
この世界に生まれおちて、いや、正確に言うならばこの世界に『転生』して、早十五年。
ようやく俺は力を手に入れる！
「ありがとう。神様」

さて、少しばかり読者諸兄に説明をしておこう。
俺の名はリッソ。お察しの通り『転生者』だ。
詳しい説明は面ど……時間の無ｄ……かったる……諸般の事情により省くが、俺は『前世』において神様のミスにより死亡した。
神様としてもそんな俺を不憫に思ってくれたようで、俺を好きな世界へと送ってくれることになった。
俺の希望した世界は『ワンピース』。ご存知の通り大海賊時代の海を自由に駆け回るモンキー・Ｄ・ルフィの物語だ。
受験戦争？　就職氷河期？　リストラ？　終わりの見えない不景気？
正直嫌気がさしていたのだろう。思い切り自由に生きてみたかった。明日の事を考えずに今日の一日を全力で生きてみたかった。

それゆえ『ワンピース』への転生を願ったのだが、やはり現代人として、あのデタラメな世界で生きていけるかは不安でもあった。ゆえに、不躾ながら神様にもう一つ願ったのだ。俺に力をくれないか、と。

神様は特に気にした風でもなかったのだが、

「それは難しい。君の望みは『生まれながらの特殊能力』だろう？　未だ生まれる前の君に干渉することは出来ないのだよ。今ココにある君の魂になら干渉も可能だが、外界への干渉の出来ない魂の能力など貰っても仕方がないだろう？」

うむ。何を言っているのかよくわからなかった。

「しかし、そうだな。君の運命に干渉することならば可能だ。君の新たな生はワンピースの世界だったな。ならばどうだろう？　『必ずある悪魔の実と出会う』という運命を君に与えるというのは？」

俺は歓喜したね。悪魔の実ほどワンピの世界で強力な武器は無い。というか悪魔の実と出会えないならワンピの世界で生きていく意味が半減するしな。なにより神様の言った『ある悪魔の実と』という部分が最高だ。それはつまり自分で手に入れる悪魔の実を選べるのだから。

「ふむ。どうやらそれでいいようだね。では、なんの実にするかね？　無論作品内で既に食われている実や、原作に出て来ていない実でもかまわないよ。前者の場合なら『君以外の誰もその実に出会えない』よう運命を変えればいいのだし、後者の場合は『そういう実が存在していた』と運命を書き加えればいいのだからね」

そいつはすごい！　つまりはティーチが最凶の実と称した『ヤミ

ヤミの実』も、世界を滅ぼす力といわれる『グラグラの実』も、そしてルフィ以外には弱点などないロギア系『ゴロゴロの実』も選び放題ということだ。

さて、それならばどうするか。俺は悩んだ。自慢ではないが想像力など無い方だし、オリジナルの実を考えたとしても碌なことにはなりそうにない。というか思い付くかどうかも分からない。

ならば原作に出てきた実を選ぶべきなのだが。

……やはりロギアだろう。覇気という抜け道こそあれ、ほとんど直接攻撃が効かなくなるのだ。

雷、炎、砂、氷、光、マグマ、……

悩みに悩んだ。そして、

決め手となったのは、『恐怖』だった。

命を奪う恐怖。ワンピの世界で生きていけば薄れるかもしれないが、その時俺は恐怖していた。

雷で攻撃したら、炎を纏って殴ったら、砂の力で水分を奪ったら、容易く命を奪ってしまうのではないかと。

手加減など出来ないのではないか。

ゆえに俺は最も死から遠いロギアを選択した。

モクモクの実と出会う運命を。俺にくれ、と。

「いいだろう。君はいずれ必ず出会う。運命が君を必ず導く。君の新たな生に、波乱と、幸運と、そして得がたき友との出会いが多からんことを」

それが、今から十五年前の神様との対話だった。

そして、俺は運命に導かれ、一つの実と出会うに至った。

ガブリと、躊躇いも無くかぶりつく。

口の中に奇妙な味が広がる。

決して美味くはない。しかし食べるのをやめようとも思わない。

それこそが悪魔の手招きなのだろうか。一度手を取ってしまえば、もはや引き帰させなどしないのが。

まぁいい。俺は力を欲している。自由を謳うために。絶対の力を欲している。

そして、俺は食いきった。

「ふぅ。ごちそうさん」

手を合わせる。それはまさしく神様への祈り。感謝の声を天上へと。

「さて、早速試してみるか」

腕を水平に伸ばして能力を行使する。

腕を煙に、それを自在に操ろう。そう意識を念じる。

腕に違和感が走り、能力が行使されたことを知る。煙を目の前へと持ってこようと念じるが、

……

………？

………………………………？？？

煙が来ないな。力は使えてるはずなんだが。

どういうわけだ？　と俺は真横に伸ばしていた腕に視線を向けた。

「へ？」

俺の予想としてはモクモクしていたはずだったんだ。

なのに、俺の腕は

モコモコしていた。

超人系（パラミシア）悪魔の実【モコモコの実】

「なんでやねーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーん！！！！！」

後に『毛玉のリッソ』の名で恐れられる（？）大海賊が産声を上げた瞬間だった。

（後書き）

間違えやがったな神様のヤロウ。そんなお話でした

まぁ、このオチを使いたかっただけなんだけどね

楽しんでいただけたなら幸いです

感想待ってます

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1586q/

その実の意味は？

2011年1月15日22時39分発行